

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	比々多魅力再発見事業			事業番号	24-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	辻 雅弘	商工観光課	小菅 賢一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち	
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり	
		施策展開の方向	11	多くの人を訪れる賑わいのあるまちをつくる	
		施策	24	魅力ある観光の振興	
予算事業名	比々多魅力再発見事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前	～	終了年度	
関連法令等					
国・県の計画等	神奈川県観光振興計画		計画期間	令和元年度～令和3年度	
関連個別計画	大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～		計画期間	平成30年度～令和4年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	令和元年度の伊勢原・大山インターチェンジの開通による交通アクセスの飛躍的な向上ならびに、令和3年度に開催予定である東京2020オリンピック・パラリンピックによる来訪者の増加が見込まれています。これに伴い、広域からの集客など、観光を振興していく上で様々な波及効果が期待されるとともに、首都圏近郊の魅力ある観光地づくりが求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	日本遺産の構成文化財である三之宮比々多神社をはじめとした歴史・文化と豊かな自然や農産物の魅力を生かした個性的なまちづくりを進め、地域団体や関係機関等との連携による地域の活性化を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	国内外から比々多地区を訪れる観光客等				
事業内容 (手段、手法など)	手書き地図の作製を通じた地域資源の再発見・再評価を実施するとともに、地元との連携による比々多地区の観光資源を生かした企画イベントの開催、案内標識等の観光インフラの整備を行います。また、大山地区や日向地区、秦野市の鶴巻温泉地区との回遊促進にむけた交通手段やルートの検討を行います。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	比々多地区で実施する企画イベント数	1イベント実施	1イベント実施	2イベント実施	
	観光インフラ整備(案内標識の設置、ハイキングコースの整備等)	案内標識等の設置 ハイキングコースの整備	案内標識等の設置 ハイキングコースの整備	案内標識等の設置 ハイキングコースの整備	
地元との観光振興に係る協議	事業を通じた協議	協議内容に基づく観光振興策の実施	協議内容に基づく観光振興策の実施		
目 標	【指標名】	年度			
	【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	比々多地区での企画イベントの実施による賑わいの創出	0回/年 (平成28年度)	1回/年	1回/年	2回/年



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	日本遺産の認定や比々多地区に点在する歴史的・文化的資源を活用した比々多の魅力再発見と誘客の促進に向けた取組を進めていきます。					
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施		● 左記以外			
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者	(一社)伊勢原市観光協会		
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先			
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容			
実施結果	項目		年度			
			平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	比々多地区で実施する企画イベント数		1回/年	1回/年		
	観光インフラ整備(案内標識の設置、ハイキングコースの整備等)		方向案内サイン16箇所設置、聖峰登山道階段修繕	聖峰、高取山登山道階段修繕		
	地元との観光振興に係る協議		協議(7回)	協議(4回)		
実施した取組の内容	企画イベントについては、いせはら手書き地図作成ワークショップを開催し、観光インフラ整備については、聖峰、高取山登山道階段修繕を実施しました。地元との観光振興に係る協議については、比々多観光振興会や手書き地図ワークショップ業務に係る協議を行いました。					
目標の達成状況	【指標名】		年度			
	【現状値】		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
比々多地区での企画イベントの実施による賑わいの創出		0回/年 (平成28年度)	1回/年	1回/年		

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
	事業費合計 (a)		300		千円		2,225		千円		0		千円		
	内訳	国県支出金 ①		0		千円		1,568		千円		0		千円	
		地方債 ②		0		千円		0		千円		0		千円	
		その他特財 ③		0		千円		0		千円		0		千円	
		一般財源 (a)-①-②-③		300		千円		657		千円		0		千円	
	国県支出金の内容		新たな観光の核づくり促進交付金(1,568千円)												
	その他特財の内容	受益者負担		○ 有 ● 無		前回の改定時期									
		その他													
	人件費	正規職員		0.42	人	3,574	千円	0.19	人	1,653	千円	0	人	0	千円
		その他の職員		0	人	0	千円		人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)		0.42	人	3,574	千円	0.19	人	1,653	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		3,874		千円		3,878		千円		0		千円		
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位	市民		単位						
			対象数	102416		人	102,171		人						
総事業費/対象数		38		円	38		円								

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	比々多地区で実施する観光企画イベントや登山道修繕等事業において、当初計画どおりに実施しました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市事業内容等	一律に比較できない事業であると考えられます。
有効性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	観光企画イベントの実施や登山道の継続的な修繕等を行うことで、来訪者ならびにリピーターの増加に伴う観光振興や地域の活性化に繋がっているものと思われます。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	観光企画イベントをはじめとする各種取組の実施にあたっては、行政だけではなく地元の観光振興団体や自治会、観光協会等との連携を図りながら円滑に進めました。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	隣接する大山地区や日向地区をはじめとする他地域の観光資源を相互に活用し、多様な魅力を提供できる広域的な周遊ルートの確立及び観光拠点づくりを構築することが必要です。
令和2年度の取組方針		日本遺産の構成文化財エリアとしての強みを活かした比々多地区の歴史・文化的観光資源の魅力的な発信を地元や関係団体、また、教育委員会と連携を図りながら推進し、更なる観光振興を進めていきます。また、案内看板、登山道における必要な修繕などを実施し受入態勢の着実な整備を図ります。なお、各種事業の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断ならびに対応を図ります。		
所管部長による総評		県内外に向けた誘客イベントの開催や登山道修繕などの比々多魅力再発見事業については継続的に実施していくこととし、比々多地区の観光資源を魅力的に紹介する観光プロモーション映像を活用した効果的な誘客宣伝についても取組を進めていく必要があります。また、市内周遊ルートの構築やインバウンド対策としての多言語表記による観光案内など、様々な来訪状況に対応できる受入態勢についても整備を進めていく必要があります。		